

健幸都市くさつの実現に向けた

提案報告書

令和3年10月13日

草津市健幸都市づくり推進チーム



健幸都市づくり推進チームとは

健幸都市づくりを「市の総合政策」として推進していくため、将来を見据えた健幸都市づくりに係る施策の企画・立案を行うとともに、全庁的に職員への意識共有を図ることを目的として、部局横断的な常設的なチームを平成30年4月に設置。

令和3年度は、若手職員を中心に庁内各分野の16名で構成。



令和3年度提案概要

まちの健幸づくり

デザインマンホールの設置

各地に設置されたマンホールの蓋にデザインを施し、デザインマンホールを探すイベントを開催したり、ウォーキングやジョギング時の目印として利用したりする。

健幸・子育て支援公園

市内に「屋根付き公園（広場）」を整備し、大人も子どもも体を動かせる＆安心して子どもと遊べる（＝大人も子どもも健幸になれる）公園をつくる。

ひとの健幸づくり

スマート健幸都市事業「スマホ×健幸」

高齢者にスマホやタブレットを貸与し、健康づくりの取組やSNS上での新たなコミュニティ形成を体感してもらうことで、高齢者の心身の健康増進を図るとともに、スマホやタブレットを持つというきっかけづくりを行う。

市職員「私の健幸宣言」

市職員の健康増進および意識醸成のため、市職員が各自の健幸宣言を記載したパネルを掲げる写真を撮影し、写真をまとめてポスターを作成したり、デジタルサイネージに投影したりする。

しごとの健幸づくり

地元野菜マルシェ

JAや烏丸農産等の関係団体と連携して、キラリエ草津等でマルシェを開催し、地元野菜をPRする。地元野菜の魅力を発信して常設の販売所へと誘導し、地産地消を推進して市民の野菜摂取量の増加につなげる。



提案と健幸都市基本計画との関係

健幸都市基本計画(計画上の課題・方向性) (◎:高い相関あり、○:相関あり)	デザイン マンホール	子育て 支援公園	スマホ× 健幸	私の 健幸宣言	地元野菜 マルシェ
まちの 健幸 づくり 基本施策2：交流機会や健康拠点の充実 ①交流機会の充実 【課題】出かける機会や交流機会を増やす ②健康拠点としての草津川跡地公園や各地域の公園の活用 【課題】健康拠点として活用の充実を図る	◎	◎	○		○
ひとの 健幸 づくり 基本施策2：個人の健康づくりの推進 ②ライフステージに応じた健康づくり 【課題】働く世代の健康づくりの取組を強化する 【課題】高齢者の介護予防に向けた取組を強化する	○	○	◎	◎	○
しごとの 健幸 づくり 基本施策1：地域産業と連携した健康産業の活性化 ②特産物を活かした健康な食等の推進 【課題】市民が草津産農産物を手に入れやすい環境を整備する 基本施策2：大学・企業等との連携 ②健康に関する情報提供 【課題】定期的・効果的な広報活動を行う				○	◎



各地に設置されたマンホールの蓋にデザインを施し、他のマンホールとは異なるデザインを探すイベントを開催したり、周遊ルートに設置してウォーキングやジョギング時の目印として利用したりする。

【背景・現状】

- ウィズコロナ時代において、一斉に人を集めるイベントの開催ではなく、個々に巡るイベントが望ましい。
- 全国ではキャラクターマンホール等を設置して、まちの賑わい創出に役立っている。
- 市内のマンホールは、設置から30年が経過し、更新時期を迎えている。
- 市内の大きな公園・広場には、園路や健康器具等が設置されているところもあり、目印やイベント等に活用可能なデザインマンホールを設置し連携することで、より楽しく健幸づくりに取り組める公園・広場になる可能性を秘めている。



▲指宿市周遊マップ

【実施方法】

- 市内の公園・広場内にあるマンホールを、更新時期に合わせてパネルタイプの蓋（※）に変更、または設置する。
- ウォーキング・ジョギングルートを目印として活用する場合は、楽しく取り組めるよう、次のデザインマンホールまでの距離や消費カロリー等を記載する。デザインマンホール探しイベントに活用する場合は、有名キャラクターや公募したイラスト等を使用したものとする。
- 設置されたデザインマンホールは、BIWA-TEKUアプリ等と連携し、ウォーキング・ジョギングルートの設定や「〇〇を探せ！」イベントの開催等に活用する。また、市HPで紹介したり、観光物産協会のパンフレット等に掲載し転入者等に配布するなど、広く周知啓発にも活用する。

※蓋の中央部分にプリントしたパネルをはめ込むタイプ。鋳鉄製のデザインマンホールと比較して耐久性・車道設置不可等の条件があるが、パネルに印刷する形式のため多彩なデザインが可能で、設置枚数による1枚当たりのコストは変化しない。既設の公共下水道マンホール蓋の製造業者が取り扱うものであれば、既設受枠が急こう配のタイプと互換性があり、蓋のみの交換も可能。【概算工事費：約44万円/箇所、蓋のみを直営で設置する場合は約11万円/箇所】



▲明石市下水道事業100周年記念

【効果】

- マンホールを探して歩き回るので、苦しさ等を感じることなく、楽しく健幸づくりができる。
- 路面に設置するので、子どもや高齢者も見やすく、すべての人が楽しむことができる。
- 使用するデザインによっては、観光客の増加も期待できる。



市内に「屋根付き公園（広場）」を整備し、大人も子どもも体を動かせる＆安心して子どもと遊べる（＝大人も子どもも健幸になれる）公園をつくる。

【背景・現状】

- 親子で体を動かせる全天候型の施設が少ない。
- 暑い時期は熱中症対策が必要。
- 令和3年3月策定の第2期草津市スポーツ推進計画では、課題として下記が記載されている。
 - ・ 幼少期の頃から体力向上に取り組む必要がある。
 - ・ 運動の好き嫌いと言われていることから、体力の向上に向けて運動好きの子どもを増やすことが重要である。
 - ・ 仕事や家事、育児で忙しい20～50歳代の働き世代や子育て世代は運動不足を感じており、家族や親子等と一緒に楽しめる機会の提供が必要である。



【実施方法】

- 市内に大型公園を整備する際に、公募設置管理制度（Park-PFI）を活用して屋根付きの開放的な空間を整備し、親子で体を動かせる遊具等を設置する。
- 維持管理のため有料とする場合は、市民割や市民無料の日を設けるなど、市民に配慮した運営を行う。
- 屋根等に健幸都市のマークを入れてもらい、健幸都市の啓発にもつなげる。



◀ イメージ写真 ▶

【効果】

- 屋根付きの開放的な空間で、天候に左右されずに、親子で楽しく遊びながら、大人も子どもも健康になれる。
- 幼少期から屋外で体を動かす機会が増える。
- 子育て世代に健幸都市の啓発ができる。



高齢者にスマホまたはタブレットを貸与し、健康づくりの取組やSNS上での新たなコミュニティ形成を体感してもらうことで、高齢者の心身の健康増進を図るとともに、スマホやタブレットを持つというきっかけづくりを行う。

【背景・現状】

- コロナ禍で人と交流する機会が減少する中、孤立する高齢者の心のケアや外出の機会が減少したことによる体力の低下への対策が必要。
- 新型コロナウイルスのワクチン接種の申込では、オンライン予約ができない高齢者が電話や窓口に殺到した。
- 令和2年12月に自治体DX推進計画が策定され、行政のデジタル化やデジタルデバイド対策の実施がうたわれている。草津市は、令和2年3月に草津市情報化推進計画を策定。デジタルデバイド対策は項目の1つにあがっている。
- 各まちづくりセンター等で実施されているスマホ講座が盛況であり、高齢者層のスマホへの関心が高いと思われる。

【実施方法】

- スマホ教室の参加者等にニーズ調査を行い、事業実施の効果が見込めると判断した場合は、スマホを持っていない高齢者に一定期間スマホまたはタブレットを貸し出す。
- BIWA-TEKU等の健康アプリを活用するほか、市で企画したイベント（デザインマンホールを探すイベントや歩数対決等）で、楽しみながら基礎的な使い方を学び、SNS上でのコミュニケーションを行ってもらう。
- 市のAIチャットボットや行政手続きを体験してもらい、使いやすさ等を確認する。
- コールセンターの設置や返却後のデータ消去作業等が必要となるため、すべて含めて委託事業として実施することが考えられる。



【効果】

- 新たなコミュニティの確保につなげることができ、高齢者の健康づくりに役立てられるほか、災害時の情報収集等の手段が増える。遠く離れた家族とも気軽に連絡をとることができ、単身世帯の高齢者でも日ごろからの家族の見守りが可能となる。
- 参加者にAIチャットボットや行政手続きをスマホで体験してもらい、使いやすさ等を確認してより良いサービスの提供へつなげることができる。
- オンライン申請等の手続きが可能となり、高齢者にとっても市にとっても負担軽減につながる。



市職員の健康増進および意識醸成のため、市職員が各自の健幸宣言を記載したパネルを掲げる写真を撮影し、写真をまとめてポスターを作成したり、デジタルサイネージに投影したりする。

【背景・現状】

- 職員の健診データをみると、LDLコレステロールの受診勧奨・保健指導対象者の割合が男女とも高く、栄養バランスのとれた食事や適度な運動が必要である。
- 市の様々な所属が健幸都市を進めるためには、職員の健幸への意識醸成が必要である。

草津市役所の健幸宣言

草津市役所は、健幸都市づくりの推進をめざし、一事業所として、職員が率先して自らの「健幸」に関心を持ち、自ら「健幸」になるため、職員が取り組む次の健幸づくりを推進します。

1. 日ごろからの適度な運動
2. 栄養バランスのとれた食事
3. 心の健康づくり
4. ワーク・ライフ・バランスの推進

【実施方法】

- 市職員が「私の健幸宣言」をパネルに記載し、それを掲げる写真を撮影。写真をまとめてポスターを作成したり、デジタルサイネージに投影したりする。ポスターを草津駅・南草津駅前の閉鎖型喫煙所にも設置し、喫煙者の健康づくりへの意識を高める。
- 宣言は目的と方法を記載する。例) 私は〇〇のために〇〇します
- 可能な課については、窓口カウンターに設置の座席表に、健幸宣言を掲げた写真を掲載する。
- 30・40代の働き世代への啓発につなげるため、この世代の利用が多いインスタグラム等のSNSも活用する。
- 今後は効果を検証し、一定の成果があると判断できた場合は、賛同事業所やKUSATSUBOOSTERS等、様々な方に参加してもらい、市のHPやYouTube等で配信していく。



【効果】

- 取組を公にすることで、本人だけでなく周囲の意識も高まる。
- ポスターにして掲示することで、市が健康づくりに取り組む姿勢を市民へアピールできる。
- 市職員が心身ともに健幸であることは、各職員の業務に健幸の視点を取り入れることができ、総合政策としての健幸都市づくりの推進につながるほか、草津市における住民サービスの向上も期待できる。



JAやからすま農産等の関係団体と連携して、キラリエ草津等でマルシェを開催し、地元野菜をPRする。地元野菜の魅力を発信して常設の販売所へと誘導し、地産地消を推進して市民の野菜摂取量の増加につなげる。

【背景・現状】

- 草津市は野菜の摂取量が少ない。
- 地元野菜を食べる機会が少ない（販売場所が少ない）。
- 令和3年10月からキラリエ草津1階のオープンスペース「くさつプロムナード」が利用可能となる。
- キラリエ草津には商工会議所等が入所し、キラリエ草津横には平和堂もある。
- 次期農業振興計画にも、JAとの連携が記載される見込み。



▲イメージ写真

【実施方法】

- JAやからすま農産等の関係団体と連携して、キラリエ草津のくさつプロムナード等でベジクサを扱うマルシェを開催する。
- あまり馴染みのない野菜にはレシピをつけて、手に取ってもらいやすくする。
- 道の駅草津や草津あおばな館で地元野菜が常時販売されていることを紹介し、駅前に住む人を常設の販売所へと誘導する。
- キラリエ草津で開催する場合は、平和堂や商工会議所等との連携実施も検討する。



▲キラリエ草津



▲イメージ写真

【効果】

- 地元野菜を知る機会が増え、地産地消につながる。
- 駅前の賑わい創出につながる。
- ココクル♥ひろばがあるので、親子連れの利用も期待でき、食育にもつながる。
- 駅前の住民を郊外の常設販売所へと誘導でき、地産地消を推進できる。
- 道の駅草津や草津あおばな館をPRすることで、新たな客層の獲得につながる。

【参考】健幸都市づくり推進チームの活動紹介



推進チームの提案から生まれ、かたちとなった取組です。

○歩きたくなるポスター掲示・デジタルサイネージ

思わず歩きたくなるようなポスターの掲示や、市民課やイオンモールのデジタルサイネージを利用して啓発を行いました。



○草津・たび丸kitchenを活用したレシピの充実

野菜摂取の習慣化や地産地消の推進につながるようなレシピの考案を、立命館大学食マネジメント学部等と連携して行っています。



○市役所における健幸づくりのための環境整備

適切な歩幅で歩くことは、よりその運動効果を高めることができることから、日常的に歩幅を意識して歩くことができる仕組みづくりとして、市役所の2階および4階、5階、6階の廊下に、身長別の歩幅を表示をしました。



▲身長別歩幅表示

○くさつ健幸ステーションの整備

自らの健康状態や健幸情報について知りつつ、交流を図りながら健幸づくりを進めていくことができる拠点として、くさつ健幸ステーションを整備しました。

血圧計や体重計等の健康測定機器が設置されているほか、健幸関連情報を発信するチラシ等を設置しています。

(その他に「健康増進機器の設置」「市民活動や交流の場の提供」「健幸相談員の配置」についても任意要件にあり)

令和元年度に市役所1階の市民サロンからスタートし、ロクハ荘・なごみの郷へと拡大、令和2年度には各地域まちづくりセンター、令和3年度にはキラリエ草津4階にも開設しました。



▲キラリエ草津

【参考】健幸都市づくり推進チームの活動紹介



提案内容の検討以外にも、推進チーム員の健幸への意識の醸成を図るため、様々な取組を実施しています。

○歩数対決 🏃‍♂️

チーム員同士で健康推進アプリ「BIWA-TEKU」の歩数を集計し、楽しく競い合い、健康づくりを行いました。

○たび丸体操の動画作成

たび丸体操のDVD化を企画し、動画を作成しました。



○先進地の市職員との交流

平成30年度と令和元年度に、蒲郡市の健康づくりのプロジェクトチームと情報交換会を開催しました。



○昼食の写真の共有

自らの食事の栄養バランスを意識するため、チーム員同士で昼食の写真を共有しました。



○朝活プログラム

推進チーム員だけでなく、広く庁内に参加職員を募集し、職員同士が交流しながら朝食を食べ、朝食欠食改善率や仕事の生産性の向上を図りました。



○健康推進アプリ「BIWA-TEKU」のスタンプラリーコースを設定

歩いて健康になりながら防災意識を高めてもらうことを目的として、6中学校区ごとの避難所をめぐるコース「知って安心！防災さんぽコース」を設定しました。



楽しく健康増進と防災意識の向上たび



【参考】健幸都市づくり推進チームの活動紹介



○歩数対決イベントを実施中です！

職員の健康増進や健幸都市づくりの意識醸成、職員の相互理解、働きがいの向上を目的に、343人の方に参加いただき、10月1日から30日まで日々の歩数を競い合う歩数対決を実施しています。

今後も楽しみながら健康になれるイベントを企画していきます。

KENKOTOSHI KUSATSU WALKING EVENT
2021.10.1 (FRI) START!!
みんなで歩数チャレンジ

参加者大募集
9/17まで

健幸都市くさつ みんなで歩数チャレンジ

開催期間 10月1日(金)～10月31日(日) 募集要項 1位・2位・3位 チームに景品あり 対象者 市職員なら誰でも

参加の流れ 参加費/人 申込書 健康福祉政策課に提出 「ピクテック」アプリダウンロード

お問い合わせ 健幸都市づくり推進チーム事務局(健康福祉政策課) TEL:561-2360(内線:2432)

令和3年度推進チーム名簿

◎リーダー、○サブリーダー

	氏名	職区分	所属部	所属課
◎	三田村 純	土木技師	建設部	公園緑地課
○	中西 稔	事務	健康福祉部	長寿いきがい課
○	岡田 麻衣	事務	健康福祉部	介護保険課
○	清水 愛紀	土木技師	都市計画部	都市再生課
	辻井 啓喜	事務	総合政策部	広報課
	斎藤 真志	事務	総合政策部	経営戦略課
	西村 礼加	事務	総務部	総務課
	杉田 真優	事務	まちづくり協働部	市民課
	棚橋 智晴	事務	環境経済部	農林水産課
	矢野 友希子	事務	環境経済部	商工観光労政課
	大槻 真里	栄養士	健康福祉部	健康増進課
	和田 康子	保健師	子ども未来部	子育て相談センター
	土井 皓平	事務	子ども未来部	幼児課
	山本 一真	事務	都市計画部	都市計画課
	渡邊 駿	土木技師	上下水道部	上下水道施設課
	山本 和樹	事務	教育委員会	学校給食センター